

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレイション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット1		
所在地	大分県杵築市大字溝井1609番地		
自己評価作成日	令和2年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和2年 12月 16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の高齢化に伴い、活発な活動は難しくなっています。  
穏やかに安心して暮らして頂ける様、一人ひとりに職員が寄り添い、ご家族様に協力して頂きながらケアを継続していけるよう心がけています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・法人内の敷地では、利用者と一緒に、季節の野菜を植え、収穫し、調理して収穫の喜びや季節を感じることが出来ている。
- ・毎月欠かさず利用者家族のもとに、写真とコメントを送付し、コロナ禍の中面会できない家族に安心と喜びを提供している。
- ・コロナ禍の中、家族を呼ぶことは出来ないが、芋ほり、運動会など行事をこなし、利用者の楽しみを作っている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は玄関の目につく場所に掲示し、管理者と職員で意識の統一を図りケアに活かしている。	法人理念とは別にグループホーム自体の理念を作り、玄関や事務所に掲示し、職員の意識付けを行い、ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていないが運営推進会議や避難訓練、夏祭り等に参加して頂くことで交流を図っていた。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった	昨年までは夏祭りには近隣の人達を招いたり、地域周辺の清掃活動に参加していたが、今年は新型コロナ感染防止のため出来ない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭りを開催し、地域の方に認知症の方と接する機会を持って頂いていたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として人が密になって集まる会議の開催を中止し、アンケートを配布し回答して頂きそこで出た意見や疑問に対しては後日議事録としてまとめご家族、民生委員、区長へ配布している	2か月に1回開催していた運営推進会議だが、今年度は2度しか開催できていない。あとは書面にて資料を郵送し、返信で意見をもらっている。中にはホールでのアクシデントが多いとの指摘を受け、職員で話し合い、今後のケアの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査、訪問調査を通じグループホームの情報を伝え、意見や助言をいただき協力関係を築いている。	市役所担当者には、推進会議や地域ケア会議に参加してもらい意見をもらっていたが、今年は出来ない。個別に利用者からの有料老人ホームに移りたいとの要望があり、相談した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス、申し送りを通して職員共通の認識を図り、安全面に配慮しながら自由に行動出来る様に取り組んでいる。	教育委員会の資料をもとに勉強会を行い、職員は身体拘束を正しく理解し、日々のケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会が中心になって、外部講師を招いた勉強会や施設内での勉強会を行い虐待防止について学ぶ機会を持っている。カンファレンス、申し送り等を通じて虐待につながることはないか検証している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部(市・県)の研修に参加し、職員への制度の理解を促している ご家族より相談を受ける事もあるのでその際は知識を活用出来るようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を準備し、契約、解約、改定について説明を行っている ご家族の疑問や不安に対して理解して頂けるよう丁寧な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と共に手紙を添えて施設での生活の様子・体調等をお知らせしている。ご家族の来設時や運営推進会議で意見要望を聞き、検討、改善を行っている	運営推進会議の資料を全家族に送付し、返信をもらっている。意見として、レクリエーションの写真が暗くて見にくい、もっと増やしてほしいなどがあり、実施した。また毎日着替えさせて欲しいとの要望も聞き入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回実施される全体会議や、月2回の責任者会議にて、具体的に事例をあげ、話し合いの場を設けている	全体会議の中で、職員数を増やしてほしいとの要望があり、実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の努力も評価されていないし、十分に給与に反映されていない。やりがいを持てる環境の整備も必要となっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修に経験年数に応じて参加している 施設内研修は教育委員会が計画、実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設との相互訪問、勉強会への参加、意見交換会を行い、交流とサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して話を出来るような傾聴の姿勢を心がけている 気持ちを伝えられない方には日頃の様子をよく観察して支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの本人の生活や、家族との関係に配慮しながら支援している 必要な時には本人や家族と面会を行ったり、電話で情報交換している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報、本人、家族より情報や意思を伺い実際に対応した職員同士の情報を共有、話し合いながら必要な支援を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活リズムを大切に、作業やレク等出来る事を積極的に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、ともに本人を支えていく関係築くようにしている 情報共有できる場を作ったり、月末には家族の近況報告のお手紙を出したり、行事参加の声かけを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お祭りや運動会などに参加することで一緒に家族や馴染みの人との交換できるよう支援に努めている	昨年までは地域の行事に参加したり運動会に招待していたが、今年は出来ていない。家族や知人には電話をかけてもらい、話すことで関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格や関係性、気持ちを大切にし席を調整したり、お互いを思いやれるような関係を築ける様な支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が必要ならば、退所された方の情報等提供している。 亡くなられた方には、夏に開催される供養祭の案内を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴と観察を怠らず毎日の生活の通じて思いを言葉に出来る方には要望に沿うようにし、出来ない方には今までの生活状況等から思いや要望をくみ取り検討している。	意見や思いを伝えることが出来る人には傾聴し、日常のかかわりの中で把握している。 困難な場合はアセスメントや家族から聞き取り、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より入所前の暮らしや生活環境等の聞き取りを実施し記録し、本人との会話の中から情報を集め把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中から、入居者の動きや会話から状況を把握し、訴えを大切にしている。 その事は、ケース記録、介護記録、申し送り簿等に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて本人、家族の意向を元に検討し現状に即した介護計画書を作成し毎月チェック、三ヶ月毎に評価している。	毎月モニタリングを行い、担当職員、本人家族の意向を取り入れ見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者の介護記録に日々の状況を記録し、情報を共有している。 随時ミーティング、カンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生じる状況や変化に応じ臨機応変に対応出来る様に支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、区長、家族を交え二ヶ月に一回の運営推進委員会を通じて意見交換を行っている。施設周辺の地域の方に行事(夏祭り等)通じ交流を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本院や家族の希望を伺いかかりつけ医を決めている。かかりつけ医による定期往診や必要に応じて他科受診を行っている。	それぞれのかかりつけ医による訪問診療を受けている。歯科など他科受診の場合は家族か職員が対応し、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し常時連携の取れるようにしている。入居者の状況を報告、相談し健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には困難を少なくするように本人の普段の様子や支援方法に関する情報の提供をしている。家族、医師、看護師と回復状況について情報交換を行い退院支援へ努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族と話し合いを行い重度化、終末期に向けた方針を確認しながらケアに取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期の対応について、出来ること出来ないことなど十分に説明し、理解して貰っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時のマニュアルを作成しており職員の周知徹底に努めている。 また、消防署の協力を得てAED、救命救急法を学び、習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、安全衛生委員会が中心となり消防署の協力を得て入居者と共に避難訓練を行っている。運営推進会議を通して家族、地域の協力も呼び掛けている。	定期的に避難訓練を実施し、地震等の自然災害についてもマニュアルを作成し、災害に備えている。事業所が高台にあるので、地域の人の避難も受け入れる体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の意思を尊重し、失礼のない声かけを徹底している。基本的に名字で声かけするが愛称で呼ぶ場合、本人や家族に了解を得ている	事業所内で、人権についての勉強会を行っている。トイレ誘導は周りの人に気づかれないよう、さりげない言葉かけをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出せる方は声かけし、話を聞いている。自分の思いを上手く表現できない方には、非言語コミュニケーションを使い意思表示サインを見落とさない様にしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが利用者1人ひとりの状態を把握し、希望を聞きその人のペースで過ごせる様支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味趣向を把握し、その人に合った服装やおしゃれが出来る様、支援している。朝の整髪、入浴後のヒゲ剃りも行っており、化粧される方もいる			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会が中心となり入居者一人ひとりの嗜好調査を年2回行っている。個々の状態に合わせて食事形態を変えている。食器洗いや台拭き等、出来る方は職員と一緒にやっている	利用者からの希望があれば栄養士に伝え、行事の時などに作って貰っている。台拭きなど出来ることは利用者と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎食、毎飲後記録し、摂取量が足りない方は、その方の好みの物やゼリー等を摂取してもらっている 月1回体重測定を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に個々の状態に応じて行っている。見守り支援しながら自分で出来る方にはしてもらい、出来ない方には職員が介助している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	引き継ぎや排泄チェック表から、一人ひとりの排泄パターンを予測し、声かけや誘導、オムツ交換を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。夜間おむつ対応の人には睡眠を妨げないように交換回数を調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日レクリエーションに運動を取り入れ、適度な代謝を促している。また排泄困難時は主治医の指示に従い、薬を内服して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施しているが、希望、汚染などがあれば適時に対応している。また、その日の体調に合わせて入浴者の変更も起こっている	お風呂は毎日沸かし、週2回は入浴できるようにしている。脱衣場は季節により温度管理を行い、気温の差がないように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムに合わせて、休息をとって頂いている。また、夜間不眠を訴える方には、会話をして話を聞いたり、医師に相談して指示を仰いでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルにて、薬の情報がすぐに確認できるようにしている。飲みやすいように薬の形状や口の入れ方などを工夫している。薬の症状についても医師と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一ヶ月の行事表にそってレクリエーションを行っており、一人ひとりの生活歴や役割を把握した上で気分転換等の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により職員と一緒に買う買い物や、季節の行事を計画している。しかし、今年はコロナ禍の為、施設内で行事を行い、外出の機会はなかなか得られていない	例年は買い物や季節の行事で外出していたが、コロナ禍で外出が難しい中、事業所周辺の散歩や、紅葉見物を兼ね植物観察をした。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理している入居者はいない。買い物の際は預っている。小口現金を必要な分渡し、職員が見守りながら支払えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば手紙や電話のやり取りができるよう支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には行事の写真を張り付けている。また、毎月その時期に応じた飾り付けを壁面に飾り、季節感を演出している	リビングはクリスマスツリーなど、季節に応じた飾りつけをし、運動会や芋ほりなど、行事の写真を飾り、常に思い出せるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々とした空間の所々にソファを置き自身で選択できる場所、落ち着ける場所になる様に工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真や誕生日カードを飾ったり好きな物を置いて居心地のいい空間づくりに務めている	使い慣れた洋服ダンスや、テレビなどを置き、いつでも部屋に帰りに帰るような居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等共同で利用する空間は貼紙などで分かりやすくしている。物の置き場所、配置を変えると混乱する事もあるので定位置に戻すことを徹底している		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレイション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット2		
所在地	大分県杵築市大字溝井1609番地		
自己評価作成日	令和2年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和2年 12月 16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内には季節の移り変りを感じて頂けるようにびわやすもも、柿などの果物や紅葉・紫陽花などの花木が植えられています。給食委員会を中心に一年を通して季節の野菜が収穫できるよう施設内で畑を作り利用者様と一緒に野菜の成長や収穫を楽しんでいます。収穫した野菜を厨房で調理し利用者様へ提供して季節の食べ物を楽しんで頂いています。利用者様一人一人の状態や状況に応じた支援ができるように施設内の勉強会や施設内研修を通して職員の知識、技術向上に日々努め利用者様、御家族様のニーズに応えることができるよう研鑽しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム 初音の里ユニット1 に記載】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初音の里の理念、グループホーム理念を玄関を入った見える場所に掲示し管理者と職員に意識付けを行い理念を共有して実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていないが運営推進会議や避難訓練、夏祭り等に参加して頂くことで交流を図っていた。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や夏祭りを開催し、地域の方に認知症の方と接する機会を持って頂いていたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として開催出来ない月もあった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策として人が密になって集まる会議の開催を中止し、アンケートを配布し回答して頂きそこで出た意見や疑問に対しては後日議事録としてまとめご家族、民生委員、区長へ配布している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	個別のケースや困難事例について必要に応じて相談し助言を受けている。認定調査で情報を伝え意見を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス、申し送りを通して共通の認識を図り、安全面に配慮し自由に行動できるように取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・教育委員会を通じて虐待に繋がるようなことはないか検証している。小さいことでも見逃さないよう職員間で注意している		

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止策として研修等の開催を中止しているが、資料を配布し制度について理解を深める機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等について重要事項説明書をもって説明を行っている。ご家族の疑問や不安に対して理解、納得して頂けるよう丁寧に答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と共に手紙を添えて施設での様子、体調等をお知らせしている。来設時や運営推進会議で意見、要望を聞き検討、改善している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回開催される全体会議や管理者会議にて具体的に事例をあげ話し合いの場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等は評価されているが給与に反映されていないのが現状である。この職種にやりがいを感じている職員も少なくないので、今後更に条件や環境の整備が必要となっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は職員の経験年数に応じた研修に参加している。施設内研修は教育委員会が計画、実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設との相互訪問、勉強会への参加を通じて意見交換会を行いサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して話せるような傾聴の仕方を心掛けている。気持ちが伝えられない方には日頃から様子をよく観察して支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活習慣等の情報、御家族が不安に思っていることや要望を聞いて支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族から情報や意見を伺い、職員全員で話し合い、必要な支援を決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活リズムを大切にし、作業やレク、会話の時間を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し共に本人を支えていく関係を築くようにしている。情報共有が出来る場を作ったり月末には近況報告の手紙を出している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止策として現在面会は基本的には禁止となっているが、県内の感染状況をみて制限をつけ面会ができるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の気持ちを大切にし、お互いを思いやれるような関係を築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	が家族が必要とされれば契約終了後にも情報等共有している。亡くなられた方には夏祭りに開催される供養祭りの案内を出している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言葉に出来る方には要望に沿うように支援し、意思伝達が困難な方には、これまでの生活や現在の状況から思いや要望を汲み取り検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取りを行い記録し本人との会話の中から情報を集め相方と照らし合わせて把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の動きや会話から現状を把握し訴えを大切にケース記録、介護記録、申し送り簿に記載している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて本人と家族の意向をもとに現状に即した介護計画書を作成し、3ヶ月、6ヶ月評価をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の介護記録に日々の状況を記録し情報を共有している。随時、カンファレンスを開催し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の一人一人の状況や変化に応じ臨機応変に対応できるように支援やサービスに取り組んでいる		

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、区長、家族を交え二ヶ月に一回の運営推進委員会を通じて意見交換を行っている。施設周辺の地域の方に行事(夏祭り等)通じ交流を働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を聞き、希望するかかりつけ医による定期的な往診を受けている。また、必要に応じて他科受診を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常時連絡が取れるようにしている。利用者の状態を報告、相談し健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の普段の様子や支援方法に関する情報を提供している。家族、医師、看護師と連絡を取りながら退院時のスムーズな受け入れができるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為が必要となった場合は対応が困難なため家族と話し合い医療機関へ入院することになっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急マニュアルを作成しており、職員の周知徹底の努めている。また、消防署の協力を得てAED救命救急法の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	リスク安全衛生委員が中心となり、消防署の協力を得て利用者と一緒に避難訓練を行っている。運営推進会議などを通して家族、地域の協力も呼び掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、失礼のないように声かけしている。基本的には名字で声かけているが本人や家族からの希望があれば名前や愛称で呼ぶこともある		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表せる方には声かけし希望を聞いている。自分の思いを上手く表現できない方にはボディランゲージを使い意思表示に気付くように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の希望がある場合にはその要望に沿えるように努めている。声かけをしながらその人のペースで過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整髪や髭剃りを行っている。普段から衣類が整えるよう気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員が年2回嗜好調査を行っている。個々に合わせ食事形態を変えている。台拭き等出来る方は職員と一緒にやっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、毎飲後記録している。不足しがちな方はその方の好みの物等を摂取して貰っている。どうしても摂取量が不足している時は主治医、栄養士に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に声かけ、見守り支援をしながら自分で出来る方には声かけし、出来ない方には職員が介助している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターン、間隔の把握に努め、定期的なトイレ誘導、声かけを行い個々に合った支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物のチェックや工夫をしている。排泄困難時は医師の指示に従い状況に応じて緩下剤を内服して頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴をしているが、状況に応じて柔軟に対応し、個々に合った入浴支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に合わせて午睡をとってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的や副作用など把握するように努めている。服薬の変更があった際は医師連絡帳に記録し全職員が把握するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の現有能力に合わせ生活歴や趣味に活かせるよう努めている。季節の応じたレクリエーションにて気分転換を図り楽しみを感じて頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望によっては戸外に出掛けることは出来ないが、施設周辺には可能な限り出かけられるよう支援している		

事業者名:グループホーム初音の里 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より小口現金を預かり管理者が管理している。希望があれば小口現金から買物をしたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や必要性を考慮し電話でのやり取りを行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁面に季節感のある装飾や行事の写真飾りいつでも見れるように工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性、好きな場所を理解し、落ち着ける場所への配慮を行っている。座る場所はほぼ決まっており、落ち着いて過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を部屋に置くようにしている。写真や飾りなどを貼り暖かい雰囲気が出るよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動きや現状を把握し訴えを大切にしている。ケース記録、介護記録、申し送り簿に記載している状態や状況に応じた過ごし方ができるように工夫している。個々の力を活かし安全かつ自立した生活が送れるように工夫している		